

# INMP 通信 No. 31

June 2020

編集：安齋育郎、山根和代

翻訳者：赤松敦子、山本美穂子



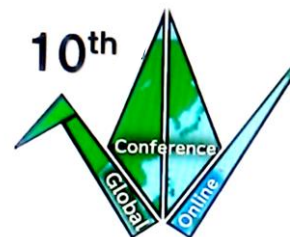
International Network of  
Museums for Peace

## 第 10 回国際平和博物館会議

2020 年の世界的な新型コロナウイルスの大流行の結果、第 10 回国際平和博物館会議の組織委員会は平和博物館国際ネットワーク (INMP) の執行理事会及び諮問委員会と相談し、最善の代替案はこの国際会議の中止や延期ではなく、オンライン会議を元々開催が計画されていた 2020 年 9 月に開催することであると決定しました。この初めての INMP オンライン会議には多くの挑戦すべき課題がありますが、また同時にこのネットワークの世界的な広がりを拡大し発展させる歴史的な機会にもなるのです。INMP のジェネラル・コーディネーターである安齋育郎教授は最近この関係について以下のように書いていました。「日本には『災い転じて福となす』という諺があります。この未曾有の災難に直面して、私たちは、電子空間で会議を行うことに伴う『不利な

条件』を見るよりも、世界中のどこからでも誰でも旅費や宿泊費を払わずに簡単に参加できるという利点により注目して、これを歴史に残る画期的な会議にしたいと考えています」。安齋教授はまた、まだ参加を検討している方々に対して、このオンライン会議がみなさんの仕事と平和を創るアイデアを世界中の平和博物館で働く人々に向けて発信する機会を提供したという点も指摘しています。

博物館と伝染病の大流行  
—オンライン上の資料



International Network of  
Museums for Peace

INMP 2020. Japan

彼の訴えが多くの方の耳に届いていないなどということはなかったということが、6月15日の参加登録と発表を希望する人の発表内容の概要提出締め切りまでに100件以上の申し込みがあったことで示されました。発表を希望する人は論文、パネルディスカッション、ポスター展示の形態の中から発表方法を選ぶことができます。発表の全文の提出締め切りは8月20日です。この会議のプログラム委員会は現在すべての発表の提案を検討しており、近いうちに申し込みをされた方々に連絡する予定です。

この会議の新しい開催形態のためにいくらか変更が必要となりましたが、代替案を提供するためにできる限りの努力をしてきました。例としては、広島市とこの会議の共同開催をすることはできなくなりましたが、広島市の元市長で長期間、平和市長会議とその核兵器廃絶のための「2020 ビジョン」キャンペーンの指導者であった秋葉忠利氏に核兵器条約の批准に関する演説をしていただく予定です。

京都に本部を置く組織委員会は INMP のオンライン会議を、世界中の平和博物館の間で体験談を交換し、このネットワークとその影響力を強化するための新しい方法を示す試金石としようという決意を固めています。

この国際会議についての最新情報はこちらのウェブサイトをご覧ください。

[website](#)

最近、世界的な伝染病の流行のために、実質的にほぼすべての博物館や図書館、その他の公的施設が数か月閉鎖され、この状況が、オンライン上への資料の公開や、オンライン来館の方法が開発されるきっかけとなりました。それはインターネット上で多くの資料やデータベースを利用可能にすることも注目を集めました。



非暴力行動の事例の分布地図

一つの例はアメリカ合衆国ペンシルベニア州のスワースモア大学の世界の非暴力行動データベースです。このデータベースはジョージ・レイキーによって創始され、彼の学生たちの協力で発展してきました。2010年にはアメリカ合衆国の平和と司法研究協会が彼を「2010年最優秀平和教育者」に選びました。こちらにより多くの情報があります。 [click here](#)



ジョージ・レイキー

もう一つの例は「100以上の無料で使える平和（と正義）教育情報サイト」という非常に貴重なリストを編集したテイラー・オコナーによって示されています。このリストは、彼が平和と正義の教育プログラム開発にかけてきた多大な年月の成果と言えるものです。その資料は様々な分野の人々から提供されて作られており、リストに入っているそれぞれの資料の中に提供者の名前が示されています。彼は情報をいくつかの話題のグループに分類しており、平和教育論、平和教育学コースとプログラム、テーマ別カリキュラムと学習教材（そのテーマには戦争と暴力の解体、人権、人種差別反対主義、環境などが含まれています）といった話題が取り上げられています。

最近トランセンド・メディア・サービス（TMS）によってその週刊誌の6月1-7日号 第23号においてこのリストが再編されました。こちらにそのリンクがあります。 [recently reproduced](#) 読者

のみなさん、この素晴らしい週刊の情報誌をぜひ定期購読してみてください。TMS についてのより詳しい情報はこちらでご覧下さい。 [here](#)



### ドイツ ニュルンベルク 平和博物館

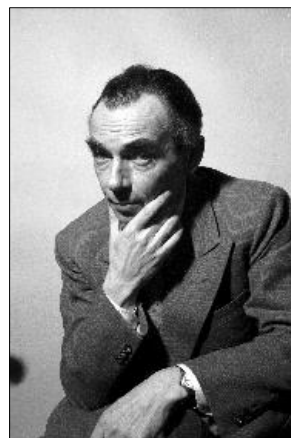
ニュルンベルクの平和博物館では、伝染病の流行による閉館期間中（国内のすべての博物館が閉鎖されたままの期間）も平和教育の提供を継続するために、当館のいくつかの展示を含む 25本の短編映画を製作し、インターネット上で公開しました。その映画はこち

らのリンクで見ることができます。

[available on-line](#). その内容は、戦争抵抗や殺害拒否、武器貿易、気候変動、女性の権利、反戦文学、難民や移民など、多岐に渡っています。これらの映画を見ていると、博物館をオンラインで訪問しているような経験ができます。

展示の一つは、「インスピレーションと勇気を与えた平和な女性たちーベルタ・フォン・ズットナーからクニ・シューマンまでの女性受賞者たち」と題されています。その展示されているすべての女性はノーベル平和賞やノーベル賞に匹敵するほかの賞を受賞しており、それぞれの肖像と解説（ドイツ語）が展示されています。その展示はここで見るすることができます。 [here](#)

公開された短編映画の中には、エーリッヒ・ケストナーの“Stimmen aus dem Massengrab”（1928年、『集団墓地からの声』の朗読: 2分弱）があり、反戦美術の挿絵が入っています。その後には、1928年に出版されたケストナーの有名な反戦詩「大砲が咲く国を知っているか」の本人による朗読が続きます。エーリッヒ・ケストナー（1899-1974）は、人気のある小説家、詩人、風刺家、児童文学者、勇敢な反軍国主義者であり、彼の本は1933年のナチスの焚書事件で焼かれました。



エーリッヒ・ケストナー（写真提供：バイエルン州立図書館、ミュンヘン）

## イギリス ブラッドフォード 平和博物館

ブラッドフォードの平和博物館では、過去1年間にいくつかの展示を行ってきましたが、2020年の感染症拡大による強制閉館期間を使って、より多くの資料をオンラインで利用できるようにし、さらにオンライン来館者が展示物とその背景を体験できるデジタルデータの双方向性プログラム、デジタル・エンゲージメント・リソースの作成を外部委託しました。このような時期においては、ビデオで発信する内容は博物館の仕事の成果の重要な一部となっており、コレクション内の遺物についての議論を刺激し、オンライン博物館訪問の経験を充実させることになります。通常3分から6分程度の約15本のビデオは、こちらで見ることができます。 [clicking here](#)

いくつかのビデオでは、博物館の数人の職員が自分の選んだ遺物を紹介しています。例えば、1930年代にキンドラントランスポート（第二次世界大戦前、1938年12月から1939年9月まで17歳以下の約1万人のユダヤ人の子どもをナチス支配下の地域からイギリスに一時保護のために受け入れた活動）で、ドイツの幼い少年がナチス・ドイツから逃れてイギリスにきた時に持っていた小さなスーツケースなどです。

もう一つ選ばれたのは、3つの部分に分かれている「良心の囚人」の彫刻で、同じように胸を刺すような物語が描かれています。

また別の博物館の学芸員は、200以上の色とりどりのカラフルな横断幕の貴重なコレクションの中から作品を選びました。その横断幕の多くは女性の平和運動に関連しているものでした。

ビデオの中には「創造的な挑戦」と呼ばれる新しい取り組みを記録したものもあります。その挑戦の活動では、遺物がそれを見る人の創造性とそれにより深く関わることを刺激するために使われるのです。例えば、小さなスーツケースだけを持って逃げるとしたら、その中には何が入っているのでしょうか？という質問に答えるのです。また、地元のアーティストが、魅力的で刺激的な発表の中で、自分の作品群か

ら選んだ一つ一つの作品を、説明したり、絵を描いたりしながら見せてくれるという例もあります。この博物館についての詳細はこちらをクリックしてください。 [click here](#)



また、当博物館は他にも革新的で時代に合ったプロジェクトに取り組んでいます。それは「平和と感染拡大」と呼ばれるオンライン展示で、この危機に対する平和運動の対応を扱い、芸術作品、ポスター、キャンペーン資料などを展示しています。展示は6月末に開始される予定で、同館では閉館中に撮影された画像や体験談をこの展示に含めるために募集しています。博物館の教育担当者と学芸員が、この想像力豊かなプロジェクトを説明し、参加を呼びかけている刺激的な会話を記録したビデオがあります。



## 2020 グローバル・アート・プロジェクト・フォー・ピース

グローバル・アート・プロジェクト・フォー・ピース（GAP）の創設者であり指導者でもあるキャサリン・ジョステンは、4月の最終週に開催された第14回隔年開催GAPには、新型コロナウイルス感染拡大にもかかわらず、30カ国以上から数千人の個人、グループ、学校が参加したと報告しています。多くの参加者は、世界的なロックダウンの中で平和交流が中止されなかったことに圧倒的な感謝の意を表し、世界中の人々をつながる手段を持つことがこれまで以上に重要だと感じていました。



マレーシア・ペタリンジャヤでのGAP参加者  
(写真提供：GAP)

多くの学校や他の参加グループは、ロックダウンの前にすでにアートを完

成させていましたが、伝統的に何千人もの参加者を登録している中国の地域コーディネーターの一人は、全く作品を登録することができませんでした。

ロックダウンにもかかわらず、中国からも子どもたち、学生、教授などの小規模なグループがなんとか参加しました。

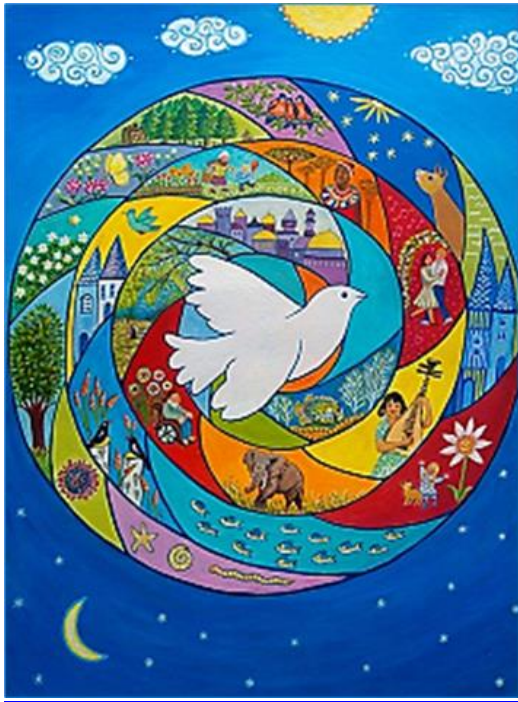


甄巍 北京師範大学

甄巍 (Zhen Wei) の『哀悼』  
(写真提供：GAP)

驚くことではありませんが、彼らの画像の多くは、国内で猛威を振るっている危機を反映しており、多くの人が自分たちに影響を与えた身体的状況や感情を反映させる必要性を強く感じていました。その一例が、北京師範大学の美術デザイン学科の共同学科長でもある地域コーディネーターの甄巍(Zhen Wei)による『哀悼』です。2020年の交流のために制作された作品は、悲しみや心の痛みだけでなく、癒しや幸福と平和な世界への希望を感じさせる、深い感動を与える視覚的表現となっています。(2019年12月号ニューズレター

29号 p.13 に掲載された GAP 2020 に関するお知らせをご参照ください。こちらに詳しい情報があります。[click here](#)



クリスティーン・ショルツ(ドイツ・トロストベルク)による 2020 年 GAP のための芸術作品 (写真提供：GAP)

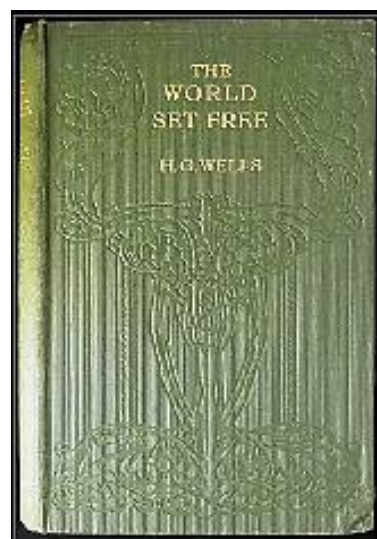
## 世界終末時計の歴史を巡る オンラインツアー

『時計を戻せ』は、原子力時代の幕開けから今日の世界が直面している地球規模の課題（特に核戦争と気候変動）に至るまでの 70 年の歴史を示す、『原子力科学者会報』によって作成された素晴らしい展示です。今年の初め、有名な終末時計は、真夜中まであと 100 秒に設定されました。



初代の『会報』の編集者ユージン・ラビノウィッチ氏 (1958 年、写真提供：ライフ誌)

この展覧会はシカゴの科学産業博物館で 2 年間展示されていた（ニューズレター第 23 号、2018 年 6 月号、pp.10-11 参照）のですが、世界中の来館者がオンラインで探索できるようになりました。情報パネル、写真や出版物などの遺物や、マンハッタン計画の科学者や技術者が語る口述歴史資料を含むビデオ展示などを拡大・縮小して見るができるようになっています。



この展示は、『会報』の社長兼取締役であるレイチェル・ブロンソンによる短いビデオで紹介されています。その中で示されている多くの遺物の中には、H. G. ウェルズが「原子爆弾」という表現を生み出した予言的な書籍『解放された世界』(1914年出版)の表紙もあります。また、今年75周年を迎えた『会報』の1945年12月10日付けの創刊号も紹介されています。これは、1945年9月にシカゴ大学出身のマンハッタン計画の科学者たちによって設立された「シカゴの原子科学者たち」の会報誌でした。「終末時計」が初めて登場した1947年6月号から、この会報は正式な雑誌となりました。『会報』の初代編集者はユージーン・ラビノウイッチでした。

この展示では、科学者、政策立案者、一般市民に対して、どこに住んでいても私たちの生活に大きな影響を与える重要な科学技術の問題についての議論に参加してもらうよう呼びかけています。『時計を戻せ』の展示では、来館者にこれまでとの違いを生み出すために自分たちに何ができるのか、そして時計の針を真夜中から遠ざけるのを手伝うために何ができるのかを探ってみるよう勧めています。このオンラインツアーを始めるには、こちらをクリックしてください。[click here](#)



1月23日、2020年の時計の除幕式 左からジェリー・ブラウン、メアリー・ロビンソン、潘基文(写真提供:『会報』)

また、『コロンビア・ジャーナリズム・レビュー』2020年春号に掲載されたE.タミー・キムの記事「パニック・タイム」は、こちらのリンクから無料でご覧いただけます。[this link](#).

## イギリス図書館サウンドアーカイブ

ロンドンの大英図書館サウンドアーカイブは、“核軍縮の声”(VND)と呼ばれる小さな組織のラジオ録音のすばらしいコレクションを入手しました。この“海賊”局は1961~1962年、毎日放送が終わる午後11時に、BBCテレビ局の音声チャンネルを乗取ったジョン・ハステッドによって運営されていました。彼はイギリスの原子物理学者で民族音楽家、そして反戦運動家(1921年~2002年)でした。VNDは、英国の団体の核軍縮キャンペーン(CND)や反核運動グループ「100人の会」ともつなが



りを持っていました。この音声コレクションは、娘のアン・ハステッドさんが大英図書館に寄贈しました。こちらから「John Hasted」で検索すると、25本のテープリストがご覧いただけます。

[Click here](#)



ジョン・ハステッド

大英図書館のオーラル・ヒストリー・アーキビストであるチャーリー・モーガン氏は、1月22日にヒストリー・ワークショップのウェブサイトに掲載された論文「革新的なもの: 秘密放送と核軍縮キャンペーン」の中で、コレクションの詳細を紹介しています。その中には、スコットランド西岸の湾ホーリー・ロッホ（英国の核抑止力の本拠地）での反核デモ、ロンドンの米国大使館前での核実験反対の抗議行動、アルダーマストン（英国の核爆弾製造地）からロンドンまでの復活祭の行進など、いくつかの短い放送へのリンクもあります。

また、約 60 年前 1961 年か 1962 年に録音され、現代にも通じる核戦争の危険性についてのバートランド・ラッセルのすばらしいインタビュー（4 分弱）もあります。こちらからお聴きください。

[click here.](#)

### シュライニングのヨーロッパ平和博物館の閉鎖、オーストリア

オーストリアのブルゲンラント州シュタットシュライニング城内にある、ヨーロッパ平和博物館の閉鎖という残念なお知らせです。博物館は 20 年前の 2000 年 5 月、ブルゲンラント州の展覧会「戦争か平和か—暴力の崇拜から平和の文化へ」（後に常設展となった）で開館しました。2019 年 10 月 20 日（日）、博物館は最後の日を迎えました。その週末には、約 1,250 人の訪問がありました。20 年の歴史の中で、30 の企画展を開催し、延べ 33.6 万人が来館しました。2020 年の一年間は城全体が閉鎖され、2021 年に城と博物館の再オープンの際には、州が依頼した「ブルゲンラント州 100 周年記念展」が新たに展示されます。その後、「ブルゲンラント現代史の家」と呼ばれる常設展になります。今後も平和の推進に関するテーマが中心となることが約束されていますが、平和博物館としての性質はなくなりそうです。

ヨーロッパ平和博物館の誕生は、ジェラルド・マーダー博士（1926年～2019年、ニューズレターNo.27、2019年6月号、7頁の訃報記事を参照）の発案でした。1971年ブルゲンラント州政府の文化大臣に就任し、1984年まで政府の役職に就いていました。1982年には、後に平和と紛争解決のためのオーストリア研究センター（ASPR）となる、平和研究と平和教育の研究所を設立し、会長を長く務めました。彼の努力と州政府の支援により、中世の城は修復され、ASPRと平和博物館の本拠地となりました。また、オーストリアのユネスコ協会の会長を一度務めたことがあり、1990年のユネスコ総会では彼の発案により、シュタットシュライニングにヨーロッパ大学平和研究センター（EPU）を設立することが合意されました。



オーストリアのブルゲンラント州シュタットシュライニング城

ASPRに平和博物館を併設するというマーダー博士の計画は、1992年ブラッドフォードで開催されたINMP第1回会議にASPRが参加したことに端を発し、

更に1995年にはシュタットシュライニング城でINMPの第2回会議を主催したことにあります。彼は回顧録に、「平和博物館館長の世界会議は、貴重な提案をただけでなく、その訴えが公的な議論の開始に貢献し、その結果シュライニングに平和博物館の創設をするためにブルゲンラント州との合意をもたらした」と書いています。INMP第2回会議は、マーダー氏の要請を受けて、ASPRが州政府に平和博物館設立の支援を求めるアピールを支持しました。詳しくは、回顧録「ユートピアから現実へ。シュタットシュライニングでの平和活動－振り返りと反省」（2016年、154頁～166頁）をご覧ください。

ASPR2019年の年次報告書には、平和博物館の閉館についての記事「暴力の崇拜から平和の文化へ：閉館したヨーロッパ平和博物館の20年」と、マーダー氏の死亡記事「平和の夢、逝く」が掲載されています。こちらからご覧ください。[this link](#).

お城と平和博物館の写真ギャラリーは、こちらからどうぞ。[click here](#)（ASPR2018年の年次報告書はニューズレターNo.27、2019年6月、6頁参照。）



## ヨーロッパ平和博物館 リムーザンの平和博物館、フランス

フランス中南部リムーザン地方クルーズ県のベテテ村に、新しいヨーロッパ平和博物館（「Museum of the Muses」とも呼ばれる）がオープンしました。この私設博物館は、トーマス・ダファーン氏によって作られ、以前はスコットランドにある Castle of the Muses を拠点にしていました。ヨーロッパ平和博物館は、平和と宗教間の融和研究のための私立の教育センターですが、事前予約で来館者に開放されており、静かな隠れ家で勉強したり、瞑想したり、現在の世界情勢の複雑さを研究したりすることができます。訪問を希望される方では、特に比較精神性や異宗教間のアプローチに興味のある方を歓迎します。博物館は、これらのテーマに関する広範なライブラリーや、平和とダファーン家に関連する様々なアーカイブを備えています。

博物館の9つの部屋は、それぞれ特定のミューズに捧げられており、それに関連した工芸品、書籍、絵画と神聖なものが展示されています。また博物館は、1991年にロンドンで設立された国際平和研究所（IIPSGP）の本拠地です。研究所についての詳細はこちらをご参

照ください。[click here](#) ヨーロッパ平和博物館は、こちら [here](#) とこちら [here](#) からご覧ください。博物館設立者についてはこちらをどうぞ。[click here](#).



## レマーゲン平和博物館、ドイツ

第二次世界大戦末期の数ヶ月、独軍はレマーゲン橋を爆破しようとしたものの失敗し、米軍がライン川に残された最後の橋（レマーゲン橋）を渡ることができたことで、レマーゲンの橋は有名になりました。3月7日には、ライン川左岸に残る橋の塔で、橋を渡ってから75周年を記念して記念式典が行われました。この作戦が成功したことで戦争が短縮され、数え切れないほどの命が救われたと推測されています。アイゼンハワー将軍は、「この橋は金の価値があった」とコメントしたと言われています。10日後、橋は崩壊し、30人以上の米兵が溺死しました。現在の映像に、ドイツの退役軍人の目撃者へのインタビューを加えた2分間の映像

(川を挟んで平和博物館の柱も見えます)は、こちらから見るができます。[this link](#) 平和博物館は、1980年3月7日に制圧35周年を記念して橋の塔に開館し、レマーゲン橋と近くの捕虜収容所の物語を伝えています。防火装置の改善のため現在閉館中 (INMP27号2019年6月号9頁参照)。

## エーリヒ・マリア・レマルク 平和センター、オスナブリュック ドイツ

著者の没後50周年(1970年9月25日)記念と併せて、30冊目のエーリヒ・マリア・レマルク年鑑が「世界のレマルク」(Worldwide-Remarque)という題で出版されました。副題は、英訳では、「今日のエーリヒ・マリア・レマルクの国際的な受容への貢献」です。



エーリヒ・マリア・レマルク (提供: エーリヒ・マリア・レマルク・ソサイエティ)

レマルクは存命中、ドイツ語圏で最も影響力のある作家の一人でした。第

一次世界大戦の塹壕戦を描いたベストセラー小説『西部戦線異状なし』(1929年)は、彼を世界的に有名にしました。しかし、没後50年を経て、彼の役割や彼の作品は世界でどうなっているのでしょうか。投稿者たちは、様々な国や文化で彼の文学作品がどのように受け取られてきたのかを辿り、過去数十年の間に起こった読者や批評家の見方の変化について述べています。詳細はセンターのHPをご覧ください。

[the Centre's website](#)

エーリヒ・マリア・レマルクの故郷オスナブリュックのバーチャル・ウォーク(17箇所を含む)は、こちらからご覧いただけます。

[this link](#)



各場所について、1枚(または複数枚)の写真と説明が掲載されています。こ

のウォークは、彼の生涯と作品についての常設展と、世界最大のアーカイブを有する平和センターから始まります。そして彼がよく訪れた市立劇場が最終地点です。また、学校の校舎や教会など、彼の人生や小説に重要な役割を果たした場所も含まれています。彼の生家をはじめとする実家の建物のいくつかは、第二次世界大戦で破損したり、崩壊したりしています。

## ハンナ・アーレント展 ドイツ歴史博物館、ベルリン

ベルリンのドイツ歴史博物館（Deutsches Historisches Museum）では、「ハンナ・アーレントと 20 世紀」という大規模な展覧会が開催されています。コロナウイルスの影響で、公開を 6 週間遅らせて 5 月 11 日に始まりました。展覧会は当初 10 月 18 日までの予定でしたが、延長されるかどうかは未定です。20 世紀を理解するために不可欠な 2 つの概念、全体主義と「悪の陳腐さ」に大きな影響を与えたハンナ・アーレント（1906 年～1975 年）なしには、20 世紀を理解することはできないと示唆されてきました。これらのテーマといくつかの別のテーマに関する彼女の著書が、本展で紹介されている重要なテキストです。全体主義、反ユダヤ主義、人種差別、フェミニズム、植民地主義、難民の状況、エルサレムのアイヒマン裁判、学生運動など、20 世紀の

歴史を映し出す、豊かで魅力的な彼女の人生と作品を大型展示で紹介しています。アーレントはナチス・ドイツからの難民で、迫害と亡命を経験し、アメリカで暮らしました。本展では、時事問題に対して頻繁に意見を述べ、しばしば激しい論争を巻き起こした彼女の姿を紹介しています。彼女の幅広い友人—知識人仲間、作家、芸術家など—も展覧会で展示しています。

イラストを多用した、展覧会の詳細な解説と分析は、ジョナソン・カトリンの批評をご覧ください。[review by Jonathon Catlin](#) パンデミックの影響で来館者の制限があることから、アーレントの“誰も服従する権利はない”（1964 年）という挑発的な言葉で展覧会が宣伝されていることの皮肉も指摘しています。展覧会の全貌はこちらからご覧ください。[here](#)

アーレントの生涯についての短い映像（3 分）はこちらからご覧ください。[this link](#)



5月6日ハンナ・アーレント展の報道者向けツアーでマスクをした人々（提供：ヴォルフガング・クミ／写真連盟／DPA／AP 通信）

ネッド・オゴーマンによるエッセイ「ハンナ・アーレントの“本物の政治”」は 2020 年代の最大の問題をどう語るか：20 世紀の哲学者・理論家の文章は、パンデミックと抗議の時代のために作られている」もご覧ください。

### [Ned O’Gorman’s essay](#)

著者は最近、『全ての人のための政治：不確実な時代にハンナ・アーレントを読む』（シカゴ大学出版会、2020 年）を出版しました。[Politics for Everybody: Reading Hannah Arendt in Uncertain Times](#)



### ノグンリ平和公園、韓国

2011 年、朝鮮戦争時のアメリカ軍の爆撃による韓国人犠牲者を記念して建設された公園（平和記念館も併設）は、一年を通して美しい花が咲き誇ると、今人気を集めています。毎年多くの市民が、広くて魅力的な庭園を訪れています。詳細は、韓国の進歩的な独立系新聞「ハンギョレ」2019 年 6 月 13 日付のウェブページ掲載記事「ノグンリ平和公園－愛と平和の名もとの花と木と水」をご覧ください。公園と平和資料館を管理するノグンリ平和財団は、2014 年に INMP 第 8 回大会を開催しました。



### 世界的に攻撃を受けている人種差別主義者の像と記念碑

5 月 25 日に米ミネソタ州ミネアポリスで起きた、警官によるジョージ・フロイド氏殺害事件や、「Black Lives Matter」（BLM）運動の台頭を受けて、奴隷商人やその他の人種差別主義者の像が、いくつかの国で最近倒されています。イギリスのブリストルでは、悪名高い奴隷商人エドワード・コルストンの銅像がブリストル湾に投げ込まれました。イギリスで最も多産な奴隷貿易組織である王立アフリカ会社の副総裁として、彼は推定 8 万 4 千人のアフリカ人奴隷を売った責任がありました。また、西アフリカからアメリカまでの奴隷船では、1 万 9000 人の奴隷が亡くなったと言われていています。オックスフォード大学では、2015 年に学生たちが始めた「Rhodes Must Fall」キャンペーンが先日、同大のオリオル・カレッジを説得し、セシル・ローズの像を撤去させました。人種差別的な考え（当時広まっていた）を持つ大英帝国の英雄た

ち一多くの場合著名な兵士の像の今後が、現在検討されています。

また BLM 運動は、南北戦争当時（1861 年～1865 年）、奴隷制を維持するために連邦から離脱して戦った、南部のアメリカ連合国の著名な指導者たちの像を、南部の州から撤去するよう求める長年の運動を再び活性化させています。また、アメリカ連合国旗の掲揚など奴隷制の象徴となるものや、特に黒人（多くの場合、奴隷の子孫）に不快感を与えるものも、最近撤去されています。6 月には、アメリカインディアン運動のメンバーが、ミネソタ州セントポールでクリストファー・コロンブスの像を取り壊しました。バージニア州リッチモンドでは、抗議により同じような像が倒され、ボストンでは銅像の頭が切断されました。ニューメキシコ州アルバカーキでは、抗議活動を受けて同市はスペインの残忍な征服者であるフアン・デ・オニャーテの像を取り壊しました。ハキム・ビシャラによる「ニューヨークのコロンブスの記念塔の争いの歴史」の記事は、こちらから読むことができます。[this link](#) また、「過去を再考する——一つの銅像から」（ニューヨークタイムズ、6月16日）は、こちらからどうぞ。

[‘Reconsidering the Past, One Statue at a Time’](#)

2019 年 9 月ニューヨーク市のアメリカ自然史博物館は、物議を醸しているセオドア・ルーズベルト米大統領の像について、「銅像問題」という展覧会を開催しました。つい先日、撤去が決定しました。ニック・ミルゾエフ氏の記事「人種差別的階層を肯定するルーズベルト大統領の像をどのように対処するか」はこちらのリンクからご覧ください。[this link](#).

ベルギーでは、植民地時代に私有地とされていたコンゴでの数々の残虐行為で、レオポルド 2 世（1835-1909 年）の像が攻撃されています。また他の国で起こっているように、通りや広場の再命名がベルギーでも検討されています（下記の新刊案内もご参照ください）。パリのトーマス・ジェファソン像の撤去とフランス史に登場する 4 人の女性の像の建立を訴えたバージニア大学アフリカ・ディアスポラ研究のマレーネ・L・ダート教授の興味深い記事は、こちらで読むことができます。[here](#)

最近出てきた無数の記事の中には、ジョシュア・シェインズの「恐怖のジム・クロウを解体するのは過去のことだ」があります。19 世紀、アメリカでは黒人に対して'Jim Crow'という攻撃的な表現がよく使われていました。「ジム・クロウ法」とは、南北戦争後、特にアメリカ南部の州に出現した隔離と

差別のルールのこと、一世紀後の公民権運動まで存在していました。[‘It’s Past Time to Dismantle the Jim Crow Topography of Terror’](#)



バージニア州リッチモンドの南軍総司令官ロバート・E・リーの記念碑で抗議する人々（提供：エゼ・アモス、グッティ、ニューヨークタイムズ）

この機会に、平和記念碑や記念碑の存在と、エドワード・W・ロリス氏の先駆的な活動に注目していただきたいと思います。ロリス氏の印象的でユニークなウェブサイトには、世界中の約3,000の平和記念碑の画像と情報が掲載されています。このウェブサイト [website](#) には「ドメイン名は失効しました」と記載されていますが、Wayback Machine で保存されていますので、こちら [click here](#) からどうぞ。彼の主な著書には、世界70カ国の平和記念碑・博物館416件を収録した『モニュメンタル・ビューティ：平和記念碑と世界の博物館』（2013年）や、ナイジェル・J・ヤング編『オックスフォード国際平和百科事典』（第3巻、2010年）に彼の記事があります。



ボストンにあるクリストファー・コロンブスの銅像（提供：ブライアン・スナイダー、ロイター通信、ニューヨークタイムズ）

### ウィルバーフォース遺産 ウォーク:ハル、イギリス

イングランドのイースト・ヨークシャー州にある港町ハルは、この町で生まれ、英国の大西洋横断奴隷貿易を禁止する運動の議会で最も強い声を上げ、奴隷貿易法（1807年）につながったウィリアム・ウィルバーフォース（1759年～1833年）と深い関係があります。彼は、イギリス領内の奴隷制を完全に廃止した奴隷廃止法（1833年）が可決された3日後に亡くなりました。この街では、ウィルバーフォース・ハウス—彼が生まれ育った家で、1906年に世界初の奴隷制度と制度廃止の博物館になりました—から始まる“ウィルバーフォース遺産ウォーク”（Walking with Wilberforce Heritage Trail）を楽しむことができます。またウィルバーフォース・ハウスは、奴隷制度と人権を研究するためのインスピレーションの場と



なっています。遺産ウォークは、市内の歴史的な中心部にある 12 の場所で構成されており、1834 年に初めて建てられ、現在はクイーンズガーデンの東端にある高さ 31 メートルの彼のための大きな記念碑で終わります。ウォーク沿いには、人権と正義のための世界的な行動を記念した新しい壁があります。カラフルで魅力的な写真（全 8 頁）は、こちらからご覧いただけます。 [this link](#)



ウィルバーフォース・ハウス・ミュージアム、ハル

奴隷制と自由に関する少し異なるトレイルが、「奴隷の壁、自由の壁」（米国）で、奴隷制、抵抗、エンパワーメントに焦点を当てた大規模な壁画コレクションです。このプロジェクトは、歴史的な奴隷制や反奴隷制を描いた壁画を中心に、1920 年代から現在までの米国の壁画を集めています。全 112 点の壁画（そのうち数点はもう現存してい

ない）の各場所や歴史、説明は、こちら [here](#) からどうぞ。またこちら [this link](#)。ご覧ください。

イラストは、マサチューセッツ州ケンブリッジのケンブリッジ・ストリートにあるデビッド・フィヒター（2002 年）の「歴史の弧は長い」を描いたものです。この壁画制作者は、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの有名な引用文「道徳的な世界の弧は長く伸びているが、それは正義の方に向かっていく」から着想を得ています。「奴隷の壁・自由の壁」プロジェクトは、英ノッティンガム大学を拠点に活動しています。



“歴史の弧は長い”

## ハルマンスドルフ市、エーリヒ・グラウシュニヒ博士の逝去を悼む

元ウィーン大学獣医学教授であったエーリヒ・グラウシュニヒ博士（1930 年～2020 年）の逝去の知らせを大変悲しく受け止めました。彼は 1976 年、ベルタ・フォン・ズットナーが長年住み、

働いていたハルマンズドルフ（ニーダーエスターライヒ州エッゲンブルク近郊）にあるフォン・ズットナー城の新しい所有者となりました。また、城の中にある国際ベルタ・フォン・ズットナー協会の創設者です。この協会は、会議、セミナー、展覧会、コンサート、演劇、その他の文化活動を組織することで、彼女の遺したものを広めることを目的としています。その多くは、城の敷地内にある、美しく修復された、17世紀後半に建てられた大きな穀物貯蔵庫で行われています。グラウイシュニヒ家は長年にわたり、隣接する公園内の様々な建物と城の大規模な修復工事を行ってきました。2005年の巡回展「ベルタ・フォン・ズットナー：平和のための生涯」が Orangery という建物（レンガ造りで、大きな窓とガラスのランタンがついた平屋建ての建物）で常設展示されています。2005年には、アルフレッド・ノーベルの友人であり、女性として初めてノーベル平和賞を受賞したベルタ・フォン・ズットナーのノーベル平和賞受賞100周年を記念して、協会は大規模な国際会議を開催しました。この会議の議事録は、2007年に「平和で進歩的な女性たち：ハルマンズドルフ城のノーベル平和賞受賞者ベルタ・フォン・ズットナー」というタイトルで出版されました。



ハルマンズドルフ城

2月27日、90歳の誕生日から数週間後に亡くなったエーリヒ・グラウイシュニヒは、ベルタ・フォン・ズットナーをハルマンズドルフに連れ戻ってきたことで、祖国、ひいては世界の人々から感謝されることでしょう。彼はズットナーの遺したものを受け継ぎ育むことだけでなく、理解や寛容、思いやり、平和と正義の非暴力を促進するために、保育園以上の教員養成に欠かせないものとして、平和教育の必要性に情熱を注いでいました。世界中の平和を愛する人々のために、彼はベルタ・フォン・ズットナーを再び注目させることに成功したのです。



2月1日、エーリヒ・グラウイシュニヒ氏の90歳を祝う家族

グラウイシュニヒ氏の家族は彼の仕事を引き継ぐことに尽力しています。ウィーン大学 [here](#) は、獣医学における彼の国際的な評価に焦点を当てた死亡記事を出しました。城の詳細はこちら [go here](#) を、協会の詳細は、こちらからご覧ください。 [go here](#).

## 平和ツーリズム:ベルタ・フォン・ズットナーの足跡を辿って、スイス

スイスでのスタディーツアー“ベルタ・フォン・ズットナーの足跡を辿って”は、当初3月または4月に予定されていましたが、10月12日～16日に変更されました。旅で訪れるルツェルンには、1902年にフレデリック・パシー（1901年の第1回ノーベル平和賞の共同受賞者）とともにズットナーが就任した、イヴァン・ブロッホ設立の世界初の平和博物館があります。

外国への同様の旅行を計画する第一弾として、文化と歴史観光が専門のオランダの旅行会社 **Historizon** が、ハーグのベルタ・フォン・ズットナー平和研究所の提案と協力のもとで企画しました。旅の最後に訪れるのは、彼女の膨大なアーカイブを有する国連図書館があるジュネーブです。ヒストライゾン誌1月号の表紙は、“ズットナー・ツアー”が飾り、国連パレ・デ・ナシオンの正面玄

関前にある、スイスの彫刻家ダニエル・ベルセット創作の地雷被害者のための慰霊碑（巨大な壊れた椅子）も掲載されました。詳細はこちら [go here](#) とこちら [this link](#) の30頁をご覧ください。



## ピース・マスク・プロジェクト 20周年と現在の目標

ピース・マスク・プロジェクト  
国際コーディネーター  
ロバート・コワルチェック

ピース・マスク・プロジェクトは、2000年初頭に日韓ライフマスク・プロジェクトとして3年間の取り組みを始めました。この3年間で、日本と韓国の27ヶ所で1,580のライフ/平和マスクが制作されました。横浜とソウルでの最終展示会を経て、ピース・マスクプロジェクト（PMP）と名称を変更しました。

日本、韓国、インド、スペイン、カンボジア、アメリカ合衆国で数多くのワークショップ、講演会、討論会、展

覧会を開催してきました。また音楽の演奏もしばしば一緒に行われました。京都・広島で開催された第6回平和博物館国際会議（2008年）、韓国・ノグンリでの第8回INMP国際会議（2014年）でも展示しました。



第6回平和博物館国際会議（ノグンリ）での  
ピース・マスク・プロジェクト展示

2014年9月、PMPは「ピース・マスク東アジア：日本－韓国－中国」と題した若者向けの取り組みを始めました。この取り組みは大きな注目を集め、その結果、ワシントンポスト紙に特集記事が掲載されたり、京都でのTEDでPMPの指導者であるキア・キムが発表することになったりと、当初は大成功を収めたプロジェクトでしたが、その年に3カ国の関係が急速に悪化し、現在でも悪化し続けていることから、3カ国それぞれの若者たちのピース・マスク47個を制作した後、プロジェクトは一旦中止することになりました。

その後、「ヒロシマ・ナガサキ（被爆者）ピース・マスク・プロジェクト」と題して17カ月間の挑戦を続けてきま

した。その過程で、広島・長崎の被爆者とその子孫100人のピース・マスクが制作されました。92歳から8歳までの日本人（90人）、韓国人（8人）、中国人（1人）、米国人（1人）のピース・マスクは、「核兵器は差別しない。その唯一の標的は人間性だからだ」ということを示しています。プロジェクトの詳細や写真は、このピース・マスクプロジェクトのウェブサイトのページでご覧いただけます。[Peace Mask Project website page](#)



ピース・マスクは、高品質の伝統的な和紙を使って、一つ一つ丁寧に手作りされています。

2018年11月、ピース・マスクの指導者であるキア・キムと創始者である芸術家のミョン・ヒ・キムは、バンコクの国連会議センター（UNCC）に招かれ、Humanity Affairs Asia（人道問題アジア）が主催した「飛躍する指導者の平和サミット発会式」に100人分のヒバクシャ・ピース・マスクを展示しました。基調講演者5人のうちの1人であるキア・キムは、「平和構築の鍵となる創造性」をテーマに、世界の様々な国か

ら集まった若者 220 人が集う中で講演を行い、その後ろには 100 人分のヒバクシャ・ピース・マスクが大きく掲げられました。会議の様子はこちらからご覧いただけます。 [a short video of the conference here.](#)

この 100 人分の被爆者ピース・マスクは広島とバンコクで展示されていますが、PMP は広島と長崎のピース・マスクのモデルとなってくださった方々との最後の約束である「ヒロシマ・ナガサキー平和のために生きる祈念碑」を国際的な適切な場所に設置することをまだ果たせていません。PMP は 20 年目を終え、21 年目を迎えるにあたり、国際平和博物館ネットワークをはじめとする他の団体と協力して、この目標を達成したいと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。PMP の国際コーディネーターであるロバート・コワルチェック ([journey04@mac.com](mailto:journey04@mac.com)) までご連絡ください。

最後に、安齋育郎博士、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン博士、山根和代博士をはじめとする「平和博物館ネットワーク」の会員の皆様に、何年にも渡る連続した事業の素晴らしい成功に対し、お祝いの言葉を贈りたいと思います。このプロジェクトの長い開催地リストの中に、2020 年 9 月に開催される「国際平和博物館会議」も含ま

れることを深く信じています。本年が INMP にとって平和の分野での卓越した活動が続いている最も記憶に残る年となることを祈りつつ、ピース・マスク・プロジェクトへのご支援に感謝いたします。

## 新刊案内

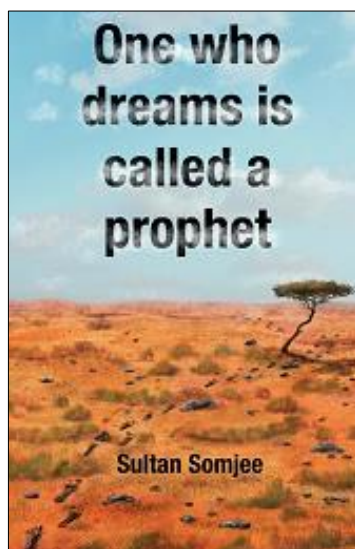
### (1) サルタン・ソムジューの新刊

東アフリカの地域共同体平和博物館と南スーダンのアフリカの子ども兵士コ地域共同体平和博物館の創設者であるサルタン・ソムジュー（参照：INMP ニュースレター第 25 号、2018 年 12 月号、pp.1~11）は、『夢を見る者は預言者と呼ばれる』と題した新作小説を発表しました。この題はサハラ砂漠の南部の低木地帯の文化の諺からつけられています。この本は、独立後の強欲、悪政、汚職を原因とする暴力に悩まされてきたアフリカの男女が、「平和の源」を見つけるために歩き出すという内容です。長老たちは、「平和の源」は、すべての地域共同体の記憶の中に生きている先住民の知識にあることを知っています。

この本は自伝的な内容が多く、著者の「紛争が激化していた時に平和博物館を作るために私と一緒に歩んでくれた有能な現場の助手や学生たち」に捧

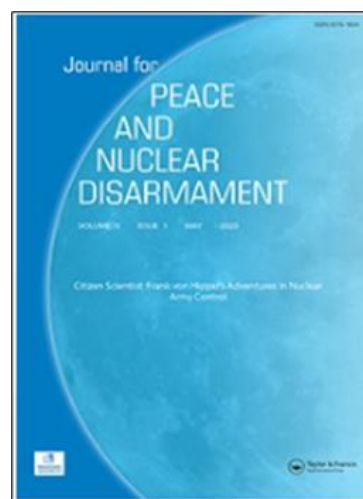
げられています。また、1994年から2000年までソムジーが民族誌学の責任者を務めていたケニア国立博物館のスタッフのアシスタントたちにも捧げられています。これらの学生やアシスタントの中には、今では「ケニア、ウガンダ、南スーダンにある自分が勤務している、または自分で設立した地域共同体平和博物館を誇りに思っている学芸員や創始者」になっている人もいます。巻末のリストには彼らの名前とその平和博物館の名前が設立準備中のもも含めて記されています。

この心温まる感動的な物語は、平和博物館の推進者としてアフリカ大陸で最も成功した人物であり、アフリカで最も情熱的で感動的な平和構築者の一人であるサルタン・ソムジーの評判を裏付けるものです。ご注文方法の詳細などのより詳しい情報については、こちらのリンクをご覧ください。[this link](#)



## (2) 丸木美術館の原爆の図

東松山市の原爆の図丸木美術館で学芸員を務める岡村幸宣が、「『原爆の図』は暴力を視覚化する一命に対する想像力」と題した素晴らしい図版付きの記事を書きました。この記事は『平和と核軍縮』誌 2919 年第 2 巻 2 号 pp.518-534 に掲載されました。記事全文はこちらから無料でダウンロードできます。[here](#) 本誌は長崎大学核廃絶研究センター (RECNA) で編集しています。



## (3) 『抗議の芸術』

ジョー・リッポンの『抗議の芸術』は、20世紀初頭から現代のソーシャルメディア活動に至るまでの100年以上に及ぶ社会的抗議活動の視覚的な旅に読者を連れて行く、豪華な図版入りの美しい本です。その中には、短期に消費された印刷物や街頭活動家からのより自発的に描かれた一時的な印刷物に加えて、世界的に有名な芸術家のポスタ

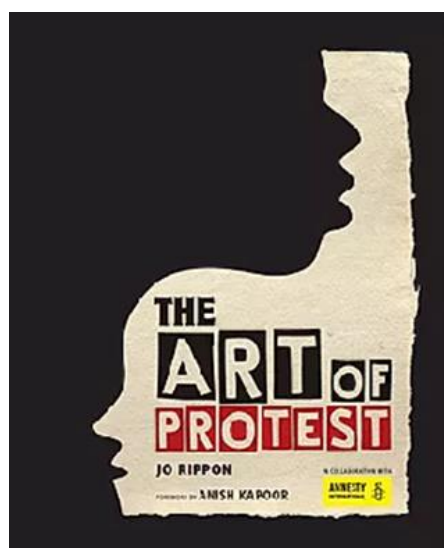
ーも含まれています。この大判の書籍には、フルページのカラー図版が約 75 点掲載されており、同様の数の小さな図版も掲載されています。

画像は、公民権運動、核軍縮、女性解放、気候変動、「黒人の命は重要だ」、ゲイの権利などの主要な運動を扱う7つの部門に分けられています。序文の中で、イギリス系インド人芸術家のアニッシュ・カプーアは、このように書いています。「この本に収録されている画像は、声を上げようとする意志をまとめたものです...ポスター、バナー、スローガンは、手作りの即時性を持っています...それらを通して、私たちは皆、私たちの魂の中にある不安と、尊厳への意志を証明しているのです。」

同書には、トランプ政権が、イスラム教徒が多数を占める国の出身者の米国入国を制限したことを受けて発表された自分の写真を使った抗議のための作品「私はアメリカが好きだが、アメリカは私を好きではない」（2017年）が掲載されています。

本書はアムネスティ・インターナショナルの協力のもとに制作されたもので、1961年の設立以来、アムネスティ・インターナショナルがいかに抑圧に対して、自由と尊厳のために立ち上がってきたかを示す、そのコレクションの中から数枚のポスターを収録して

います。その印象的な画像や引用文の多くは、今日でもインスピレーションを与え、平和博物館に展示されるに値するものです。この本はロンドンのパラッツォ・エディションズから出版されています（2019年、176頁）；詳細はこちらをご覧ください。 [go here](#)



表紙の画像は、イギリスの政治漫画家、芸術家、活動家のケン・スプリングがボイコット運動（後に反アパルトヘイト運動となった）のためにデザインした1960年のポスターを基にしています。この運動では「アパルトヘイト反対 南アフリカ製品ボイコット」という言葉が重要な役目を果たしています。

#### (4) 21世紀のヨーロッパの博物館

読者の皆様には、全3巻の『21世紀のヨーロッパの博物館－枠組みの構築』に興味を持っていただけるかもしれません。この書籍は、欧州連合（EU）が資金を提供している国際的な学際的研究プロジェクトの成果です。このプロジェクトの主な目的は、現代の国際化、移動、移住という過程の課題を反映し

た革新的な博物館の実践を定義することです。

目次の主な項目は、国史博物館、民族・世界文化博物館、移民博物館、都市・地方博物館、そして戦争博物館です。他の地域でもよくあることですが、フランスのカーンにある「歴史と平和のための記念館」を除いては、平和博物館や平和のための博物館はヨーロッパには実質的にはほとんど存在しないのです。

多くのカラーの図版を含むこの書籍は、ルカ・バツソ・ペレスット、フランチェスカ・ランツ、ジェンナーロ・ポステリオーネによって編集され、2013年にミラノのポリテクニコ・デイ・ミラノから出版されました。ここから全巻を無料でダウンロードできます。[here](#).

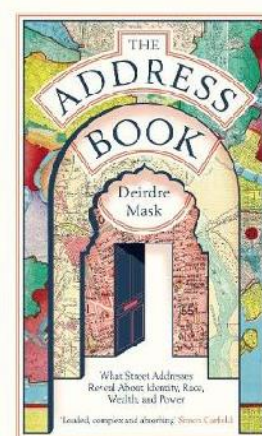
### (5)平和暦音声版

「戦争を越えた世界」(ニューズレターNo.28、2019年9月号、p.19参照)が発行した『平和暦-1年の日ごとに1ページにまとめられた一つの重要な事実』が音声版でも入手できるようになりました。1年の各日ごとに1つずつ、2分間の音声ファイル365個で構成されています。平和暦音声版は無料で入手できます。ラジオ局やポッドキャストでは、毎日放送することをお勧めします。詳

しい情報とこの音声ファイルはこちらのサイトにあります。[go here](#)

### (6)道路の名前付けと再命名

ディアドル・マスク著『住所録：通りの名がアイデンティティ、人種、富、権力について語るもの』は魅力的で独創的な本で、「私たちの通りに名前や番号を付ける啓蒙活動が、私たちの生活のあり方や社会の形成の仕方における革命とどのように一致してきたかという複雑な物語を語っています。私たちは、通りの住所を純粋に機能的で行政的な道具として考えていますが、それは、何世紀にもわたって権力がどのように移り変わり、広がってきたかという、より大きな物語を語っているのです。」



この引用は序章の「なぜ通りの名前は重要なのか」(pp. 13-14)からのものです。こちらで[here](#)その全文が読めます。このサイトにより詳しい内容が掲載されています。



マスクは、例えば、アメリカ合衆国のマーティン・ルーサー・キング・ジュニアにちなんで名付けられた通りの運命や、ナチスが現代ドイツの通りにもどのように取り憑いているかを探っています。

彼女の大変今日的な話題の本は、通りの名前の背後にしばしば隠されている物語と、誰が重要で誰が重要でないかを決定するその力、そしてその理由を明らかにしています。こちらの記事もご覧ください。[article](#).



この通信は、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、山根和代、安齋育郎、キヤ・キムによって編集されました。

また日本語版の翻訳は、赤松敦子さん、山本美穂子さんが担当しました。この通信は、INMPの個人と組織をつなぐ重要な場です。またINMPの会員ではない方が世界の平和博物館の活動を知る上で、大変重要です。

以前発行された通信は [INMPの新ウェブサイトで読むことができます。](#)

<http://tinyurl.com/INMPMuseumsForPeace/>

INMPの通信は年に4回発行されますが、定期的に読みたい方は、メールアドレスを次のメールにお知らせ下さい。[inmpoffice@gmail.com](mailto:inmpoffice@gmail.com)

2020年9月に発行される次号に投稿したい方は、2020年8月15日までに原稿をお願いします（英文で500語以内、日本語の場合1000字以内、写真1-2枚）。直接英語による原稿を書くことに困難がある場合には、以下のINMP日本事務局にご相談ください。

[inmpoffice@gmail.com](mailto:inmpoffice@gmail.com)

### INMP コーディネーターからの お知らせ

INMPの会費と寄付をお願いします

INMPの財政はみなさまの会費と寄付によって成り立っています。これまですでに会費を支払った方には感謝申し上げます。まだの方は、納入方、よろしく申し上げます。

\* 日本の方は、次の口座に振り込むようお願いいたします。

年会費 2,000 円  
※送金先：INMP 郵便局振込用口座  
記号 14480 番号 49799181  
名前 アイエヌエムピー  
他金融機関からの振込の場合  
店名 四四八（ヨンヨンハチ） 店番 448  
普通預金 口座番号 4979918